|  |
| --- |
| **科研費課題の研究概要**  支援申請の元になる科研費研究課題について研究目的（概要）を記入してください（詳細は4ページ以降に記述いただきます）。 |
| **研究目的（概要）** |

|  |
| --- |
| **支援希望内容**  「先進ゲノム支援」活動による支援を希望する具体的な内容を、技術別（新規ゲノム、変異解析、修飾/エピゲノム解析、RNA解析、メタ・環境・ホロゲノム解析、シングルセル解析、空間的オミックス解析、情報解析）にできるだけ具体的に記述してください。また、希望するシーケンサーや、対象とする生物のゲノムサイズ、試料数、検体数、希望するカバレージなど、できるだけ定量的にかつその理由について記述をお願いします。なお、原則として、支援依頼内容は年度内に実施可能なものとなるようにしてください。 |
|  |
| **支援を希望する理由等**  本欄には、①～⑥の各項目についてタイトルに続けて記述してください。（合計２ページ以内としてください。） | | |
| **①科研費研究課題における当初の研究計画との関連と、これに加えて支援を希望する理由**  **②本支援の結果、科研費研究課題の当初計画に加えてどのような研究の発展が期待できるのか、及びそのための研究計画と研究体制**  **③受託解析サービス等の利用ではなく「先進ゲノム支援」活動による支援を希望する具体的な理由**  **④ゲノム科学研究としての支援申請内容の先進性と国内外の研究状況**  **⑤支援を受けるための材料等の準備状況、支援結果活用のための準備状況**（DNA, RNA等の準備状況、得られたシーケンスデータの情報解析の計画、大型ゲノム配列決定を含む場合は研究コミュニティとの連携計画等を記述してください。）  **⑥過去の「先進ゲノム支援」による支援の有無(選択)　□有り　□無し**（支援を受けたことがある場合は、支援を受けた年度、支援の概要および成果(論文等)を以下に記述してください。特に、2021年度、2022年度に「先進ゲノム支援」による支援を受けている場合には、①前回の支援進捗状況、および②前回申請内容との違い、をそれぞれ明確に記述して下さい。支援を受けたことがなければ記述の必要はありません。） | | |
| **支援を希望する理由等（つづき）** |
| **外国由来試料への対応**  解析試料が外国に由来する場合、生物多様性条約及び名古屋議定書に基づく由来国の法令などに則って取得することが必要です。  **大原則として条約発効日の1993年12月29日以前に日本国内に入っていた、あるいは取得した場合は対象になりませんが、それ以降のもの（以後、外国由来試料とします）は対応が必要です。**この対応が行われていない場合、論文発表やデータベース登録ができなくなる恐れがありますので、先進ゲノム支援での解析は行なえません。  対応策は由来国や試料によって異なり複雑ですので、外国由来の可能性のある場合は、WEB申請システム上で必要情報を入力して頂きます。また、外国由来ではない場合もその入手経緯など必要情報を入力して頂きます。**申請書と同時にダウンロード頂いているエクセルファイル内に項目様式がありますので、事前に回答をご準備ください。** |
| **科研費課題の研究目的**  　支援申請の元になる科研費研究課題について、研究目的を2ページ以内で記入してください（当該研究計画調書内容そのままでも結構です。支援希望内容ではありません）。 |
| ①研究の学術的背景  ②当該分野における本研究の学術的な特色・独創的な点及び予想される結果と意義  ③研究期間内に何をどこまで明らかにしようとするのか |
| **科研費課題の研究目的（つづき）** |

|  |
| --- |
| **研究業績**  （発表論文の場合、論文名、著者名（申請者の名前には下線を引いてください。）、掲載誌名、査読の有無、巻、最初と最後の頁、発表年（西暦）について１ページ以内で記入してください。） |
|  |